



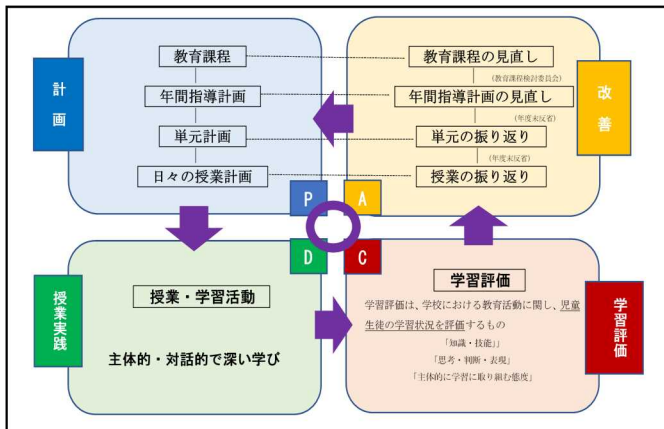
観 武

本校の学校教育目標は、

「一人一人が輝く存在として、主体的に生きられるよう社会的自立を支援する」

です。今、輝いていること、そして将来の社会生活でも輝き続けることを目指し、本校では小学部から高等部まで、日々の学びを積み重ねていくことを大切にしています。

そのために、本校では、【図1】で示すPDCAサイクルの往還の中で児童生徒の実態に応じた授業づくりと児童生徒の学びの評価について職員間で共通理解していくことで、児童生徒の確かな学びにつなげていくことを意識しながら学習活動に取り組んでいます。



【図1】本校におけるPDCAサイクルの考え方

	指導の形態について	各教科との関連について
日常生活の指導	日常生活の指導は、児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導するものである。	生活科の内容だけでなく、広範囲に、各教科等の内容が扱われる。
遊びの指導	遊びの指導は、遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかわりを促し、意欲的な活動をはぐくみ、心身の発達を促していくものである。	生活科の内容をはじめ、各教科等にかかわる広範囲の内容が扱われる。
生活単元学習	生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習するものである。	広範囲に各教科等の内容が扱われる。
作業学習	作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。	職業・家庭科の内容だけでなく、広範囲に各教科等の内容が扱われる。

【図2】「各教科等を合わせた指導と、各教科との関連について」(文部科学省中央教育審議会 教育課程部会 特別支援教育部会(2016))

また、知的障がいのある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、「学習指導要領」に示されている各教科の内容の指導を行うこととなりますが、教科ごとの時間を設けて指導を行う「教科別の指導」、特別の教科 道徳や特別活動等の時間を設けて指導を行う場合、そして、各教科、特別の教科 道徳、特別活動、自立活動等の一部または全部を合わせて指導を行う「各教科等を合わせた指導」の三つの指導形態があります。(※「各教科等を合わせた指導」の指導の形態等については【図2】をご覧ください。)

本校では、現在、教育課程の改編(※教育課程とは、学校の教育目標の達成に向けて、教育の内容を児童生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した各学校の教育計画のことです。)に取り組んでおり、令和8年度からは小学部に「図画工作」、中学部に「社会」、「理科」、「職業・家庭」を新たに「教科別の指導」として学習をすすめていく予定です。なお、高等部についても、これまで通り「各教科等を合わせた指導」である作業学習で縦割り班としての活動を継続しながら、「職業」、「家庭」について「教科別の指導」として学習をすすめていく予定です。

各教科等における見方・考え方の観点を大切にしながら、児童生徒が学習を通して自分らしく輝くことができる力を育む授業づくりと児童生徒のよさを認める評価を繰り返し、実りのある学校生活につなげていきたいと考えています。



奥中山校



「児童生徒の主体的な学びを育む授業づくり」を追究しながら・・・

奥中山校では、学校教育目標を達成できるよう、昨年度に引き続き「児童生徒の主体的な学びを育む授業づくり」をテーマに校内研究として取り組みながら、日々の授業づくりに努めています。

そもそも「主体的な学び」とは、どのような学び方なのか、そのためにはどのような支援の工夫が必要なのか、など職員間で話し合いながら授業づくりを進めてきました。今年度は、「生活単元学習」「音楽」「図画工作」「美術」「自立活動」「保健体育」「作業学習」と様々な授業について学部を越えて互いに参観し合い、それぞれ児童生徒の主体的な学びを効果的に引き出せているか、意見交換を重ねてきました。また、より深く豊かな学びに結びつくよう、実施する授業がどの教科のどんな内容とつながっているのか、昨年度作成した表を基に見直しをしました。

児童生徒が「夢中になって取り組み、達成感と学習意欲につながるような授業」を目指して、体験的な学習を大切にしながら、職員全員で授業づくりに励んでいきたいと思えます。



生活単元学習

「朝顔の観察」の学習に取り組みました。観察の最後には種取りをして、種の形や色を絵で表現しました。



作業学習

地域の方々から回収した牛乳パックを使って、「油吸い取り材」を作っています。

二戸分教室



二戸北星支援学校 4月開校にむけて

二戸北星支援学校は、地域の中で共に学び育つ環境を整え、児童生徒一人一人が自己選択・自己決定をとおして社会参加や自立ができる人間へと成長できる学校づくりを推進していきます。

令和8年度からめざす学校づくり

地域を活用した学び

～地域の方々や地域の学校との交流～



【来校型・訪問型の交流】地域の方々や地域の学校の児童生徒が来校し、本校を会場に交流する来校型の交流や、本校の児童生徒が地域の企業や町内会、小中学校などを訪問して交流する訪問型の交流を推進していきます。

【間接的交流】直接的な交流だけでなく、学校紹介パンフレットや、動画、作品などを発信し、間接的な交流も行いながら、地域の方々に学校を知ってもらったり、自分たちの地域を知ったりする学習を深めていきます。

【学校設定教科】高等部では地域をテーマとした学校設定教科を設け、地域の中で自分ができることを考え、実際に活動するなど、地域のことを学びます。